

## 第1回熊本市河川整備計画策定委員会 議事録

【1】日 時 令和3年11月26日（金） 10:00～12:00

【2】会 場 熊本市役所11階 会議室

【3】出席者

〔委 員〕

大本委員（委員長）、柴田委員、竹内委員、松崎委員、皆川委員

〔事務局〕

熊本市：米村土木部長、上村首席審議員、松窪河川課長、中島副課長  
杉村主査、代宮司技術参事、堤技師

【4】議事概要

- ・健軍川河川整備計画（たたき台）について
- ・藻器堀川・保田窪放水路 河川整備計画（たたき台）について

## 【5】主な質問・意見の概要

### 健軍川

〔大本委員〕・健軍川は普段は水がない枯れ川で、人工的な排水路とみていたが、その認識はどうか？

〔事務局〕・委員が言われるとおり、人工的につくられた河川で、上流には泉や池等はなく、南郷往還に沿って掘られた河川である。もう少し、歴史的な背景等調べてみたいと思う。

〔松崎委員〕・健軍川は過去の図面では川の記載はなく、高台なので周辺は畑であった。戦後に宅地化が進み、人が住むようになったようだ。

〔大本委員〕・自然発生的な川なら、普段から水が流れている。普段は水がない川との認識が必要。雨の時に水嵩が増し、浸水等が発生する典型的な都市河川である。資料 1 の旧天明新川の改修写真を見ると、他の河川と比較するとよろしくないように見受けられる。

〔事務局〕・改修直後の写真のため、自然が回復していない状況の写真である。

〔大本委員〕・以前、県にも言ったことがあるが、江津湖をしっかりとみてほしい。雨になるとファーストフラッシュで汚濁物が江津湖に入り、江津湖の水が茶色くなる。川に沿って道路があり、道路の排水が一度に入ってくる。その辺を河川改修で工夫する事はできないか。

〔事務局〕・河川は道路、宅地の水を受けるもので、道路排水についても河川に入る。下水道の合流区域であれば、ファーストフラッシュの一部を下水道の処理場に流すことが可能であるが、合流区域以外での対応は難しいと思われる。健軍川については一部合流区域があり、これまで本市でも合流改善事業として河川や湖沼への汚濁負荷低減に努めてきたところ。

〔皆川委員〕・江津湖に対する水質の負荷という点が最も重要である。

・水質が BOD しかないが、出水時の他のケミカルデータはあるのか。

・河川への負荷に関して今後検討すべきなのは、気候変動に対する降雨強度の対策や水質、浸透対策である。流域治水、水質対策など流域全体での対策を記載したほうがよい。

・流域治水協議会等が動いているので、整備計画には入れる必要がある。

〔大本委員〕・河川改修だけでなく、遊水地や学校貯留を考慮してはどうか。河川だけで対応するのはすぐに限界が来るため難しい。

〔皆川委員〕・対象区間のうち、法河川としての上流端 7k000 はどういう基準で決まっているのか。

・整備計画は流域全体を含めた方がいいのではないか。

〔事務局〕・河川改修が必要な区間として設定されている。7k000 より上流の流下能力は確認してみる。

〔皆川委員〕・P5は、鳥獣保護区等の規制状況が示されているため、「自然公園の指定状況」というタイトルは違和感がある。

・P11の河川利用で、通学路や散策等の利用は行われているようであるが、「河川利用は行われていません。」と書かれている。どのような意味か？

〔事務局〕・河川利用がないという意味ではなく、農業用水の利用がないという意味で記載している。

〔大本委員〕・健軍川は、晴天時は水がない区間も多いが、カワヂシャやミナミメダカはどの辺りにいるのか？

〔事務局〕・参考資料「健軍川、藻器堀川の河川環境について」にカワヂシャやミナミメダカの生息が確認された位置を示している。

### 藻器堀川

〔大本委員〕・保田窪放水路はいつごろから議論されていたのか？

〔事務局〕・藻器堀川下流域の水前寺地区などで、大雨による浸水被害が発生していたため、昭和47年頃には、保田窪放水路が計画されていた。当時から藻器堀川下流域は宅地化が進んでおり、河道の拡幅が現実的に困難であったため、保田窪放水路により浸水被害の防止・軽減を図ることとなった。

〔大本委員〕・白川は極めて危険な川。保田窪放水路にバックウォーター等が入らないか心配である。

〔事務局〕・保田窪放水路は白川に対して、河床がかなり高く、バックウォーターについては問題ないと考えている。国交省とも調整を行っており、白川の河川改修にあわせ、保田窪放水路にも特殊堤が設置されている。

〔松崎委員〕・藻器堀川は幕末頃の文献に記載がある。源流は西原から長嶺辺りと考えられるが、S40年頃まで上流にはため池があつて、江戸時代から農業用水等で利用されていたのではないかと思われる。参考となる文献があるので確認してほしい。

〔事務局〕・教えていただいた文献等を確認する。

〔皆川委員〕・藻器堀川は江津湖近くの下流域ではいろんな所で湧水が湧いている。湧水を藻器堀川の魅力のひとつとして記載してほしい。江津湖の水量減少にもかかわるため、湧水の位置を確認し、その保全についても記載してほしい。

・P15等に掲載されている位置図については江津湖の位置を明記し、江津湖と河川のつながりを示したほうがよい。環境については連続性が重要である。

- 〔**大本委員**〕・藻器堀川、健軍川の整備計画は治水安全度を確保する事を目的としているが、両河川から汚染物が江津湖に流入し、蓄積することで、硝酸性窒素が多いことが問題となっている。そういう意味で両河川の湧水の量に加え水質を把握することが重要である。
- ・江津湖は市民にとって貴重なものであるため、河川管理の面でもそのことを踏まえてもらいたい。
- 〔**柴田委員**〕・資料 5-P20 の河畔林を保全して改修というのは良い。現地発生の石を使うとなっているが具体的な工法等まで考えていけば、伺いたい。
- 〔**事務局**〕・方向性として水生生物等に配慮した整備形態を示しているところであり、現時点では具体的な工法の検討にまで至っていない。
- 〔**柴田委員**〕・多自然工法をぜひ藻器堀川だけでなく健軍川でもしてほしい。健軍の上流端で拡幅する区間は宅地化されておらず、環境に配慮する余裕があると思う。
- ・出る水、入る水をどう流すか、流域でどう抑制するのか、浸透させるのか、他部所との連携を含め検討してほしい。
- 〔**大本委員**〕・年超過確率 1/10 の整備計画と将来計画との整合性が必要である。
- ・年超過確率 1/10 で整備をしても、それ以上の降雨に対しては危険が残るが、住民は河川改修が行われると安心し、都市開発が進んだりする。住民の危機意識が育たない等の課題があるため、ソフト対策を記載したほうがよい。
- 〔**事務局**〕・ご指摘のとおりハード整備とソフト整備を一体的に進めていく必要があると考えている。資料 5-P17 の「3.3.3 施設の能力を上回る洪水を想定した対策」がご指摘の内容に近い内容と思われる。
- 〔**竹内委員**〕・健軍川、藻器堀川共にハードとソフトが重要であり、溢れたから対応するのではなく、これまでの歴史やどういうときに氾濫してきたのか、上下流の状況やお互いの理解が必要になってくると思われる。上下流の関係性や流域治水をふくめた記載を行ったほうがよい。
- ・タイムラインによる避難計画の作成を想定すると、気象台の広域的な情報だけでなく、健軍川、藻器堀川の水位の状況を住民各位が河川カメラの映像等で確認できれば、よりよい避難行動がとられると思われるため、そのようなことを踏まえた記述に修正したほうがよい。
  - ・浸水被害の状況だけでなく、歴史的な背景や土地利用の変遷などを時系列で整理し、昔の写真などもあれば、掲載したほうがよい。

- 〔**大本委員**〕・河川管理だが、流域管理でもあるので、どういう背景で水害や環境問題が発生するのか、問題意識を高める資料ととらえるほうが良いかもしれない。
- ・危機管理として年超過確率 1/10 は高いレベルではない。例えば、年超過確率 1/50 になると河川改修での対応は現実的でなくなるため、必然的に流域管理になるし、その中で被害を最小化する考え方になる。30 年、50 年といった雨の状況は今の気象状況ではありうる現象なので、危機管理としては 50 年を視野に対応可能かどうかみておいてほしい。
  - ・治水史は重要だと思うが、政令市移行に伴う権限移譲の際、人的、物的な被害の量や開発の背景等に関する引継ぎはあっているか。

〔**事務局**〕・管理状況や整備状況に関する引継ぎはあっている。その他については、確認する。

- 〔**大本委員**〕・人の利用によって危険度が増し、一方で地球温暖化により異常な雨の降り方も増え、ハザードが大きくなっている。そうになると、基本的には安全弁としてのシステム設定が重要。
- ・江津湖の価値を考えた場合、個人的には治水だけでなく環境の重要性が増すと考える。

- 〔**皆川委員**〕・政令市移行に伴い権限が市に移譲されたことは、市にとってチャンスだと思う。市が将来の姿を想像し、過去を大事にしながら、自分たちで整備ができるようになっていく。どういう川にしていきたいか市民との関りも含め、より具体的に記載してほしい。
- ・住民の意見聴取は前倒して実施したほうがよいと思われる。

- 〔**大本委員**〕・河川整備計画の内容についての議論が求められていると思われるが、様々な関連事項がある。
- ・江津湖は市民の宝である。河川内は危険な箇所も多いが江津湖なら安心して自然と触れ合うことができる。
  - ・健軍川、藻器堀川の改修により、環境面等に悪影響を及ぼさないか、江津湖とのかかわりは重要である。
  - ・上流に遊水地とあるが、どの程度効果があるか。

〔**事務局**〕・流量でいうと  $6\text{m}^3/\text{s}$  の洪水調節機能を想定している。上流の目標流下能力が  $45\text{m}^3/\text{s}$  なので、その 10%相当を遊水地が担うことができると考えている。

- 〔**大本委員**〕・都市河川であるため、河道拡幅で流下能力を上げることは難しい。公園や学校等で貯留する事も、視野に入れたほうがいい。

〔松崎委員〕・加勢川や鯉等の過去の被害等の文献は膨大にあり、江津湖自体が加勢川の遊水地としての機能を備えている。

〔大本委員〕・白川は右岸と左岸で構造がちがいが、右岸はがっちり造ってあるが、左岸は氾濫が前提で、危機的な場合は水が左岸に行き緑川に流れる。自然地形を利用した治水形態である。

〔皆川委員〕・緑の基本計画にもグリーンインフラなど浸透施設の事例が掲載されている。緑の基本計画との整合を含め、他の部署との連携が必要と思う。

〔大本委員〕・人口動態や土地利用を踏まえて、上位計画として都市計画があり、道路、河川の計画がある。それを30年、50年といった長期で見ると、市民の意向を踏まえた都市計画のビジョンとなる。それは、安全性だけで成り立つものではなく、一方、利便性を重視すると、自然災害に脆弱となることがある。このような、中長期の計画に対し、短期的な計画の整合性が必要となってくる。川は地域の血管であり、血液である水が汚れると健全とはならない。本日出た意見を全て反映することは難しいかもしれないが、河川整備計画について、そのような視点を持ち、修正案を考えてみてほしい。

〔事務局〕・本日頂いた意見の趣旨を踏まえ、健軍川、藻器堀川の河川整備計画を修正し、次回の策定委員会に提示したい。